

会報 青森県在宅保健師の会



令和6年8月発行・第45号

令和6年度青森県在宅保健師の会総会並びに研修会



去る6月11日、青森市「東奥日報新町ビル」において、令和6年度青森県在宅保健師の会総会並びに研修会を開催し36名の会員が出席しました。

総会では、新井山洋子会長の挨拶のあと、来賓の青森県がん・生活習慣病対策課課長の三村光司様から「会員の皆様には、保健福祉活動の推進に尽力いただき、心より感謝している。今年度県では、第三次青森県健康増進計画をスタートさせ、令和17年度までの12年間を計画期間とし、健康寿命の延伸と早世の減少を目標に掲げている。引き続き、県民の健康増進のためご協力いただきたい」との祝辞をいただきました。

続いて、青森県国民健康保険団体連合会常務理事の舩甚悟様からは「青森県在宅保健師の会の皆様には、地域住民の健康の保持・増進に寄与していただき、また国保連合会が実施する健康づくり事業への多大なご協力に感謝している。これからもより一層のご協力を賜りたい」と祝辞をいただきました。

議事では山内淳子会員（五所川原市）を議長に選任し議案審議に入り、提出された令和5年度事業報告・決算、令和6年度事業計画・予算（案）については、全て原案どおり承認されました。

その後の役員選出では議場から役員案を求める発言があり、新井山会長から次期役員案について説明したところ、原案どおり承認され、最後に新役員から就任の挨拶をいただき閉会しました。

令和6年度事業計画 (具体的事項)

1. 総会（6月）
2. 役員会（4月、7月、11月、3月）
3. 在宅保健師等会連絡会議
 - (1) 東北地方在宅保健師等会連絡会議
(山形県：12月5日～6日)
 - (2) 都道府県在宅保健師等会全国連絡会
(東京都：令和7年2月中旬)
4. 各種研修会等の開催及び案内
 - (1) 総会時研修
 - (2) 在宅・現職保健師保健所ブロック別交流会並びに研修会（共催）（10月）
 - (3) 関係機関（県・国保連合会等）開（共）催研修
5. 地域の保健・福祉活動支援事業 5団体
6. 広報活動
 - (1) 会報の発行 年3回（8月、12月、3月）
 - (2) ホームページの更新
7. 県・市町村・国保連合会等からの要請事業等への支援・協力
 - (1) 保健師の人材育成への支援
 - (2) 小規模保険者支援事業
西目屋村（10月30日～11月1日）
 - (3) 青森県保健協力員等連絡協議会
 - (4) 各種委員の委嘱、各種事業等
 - (5) その他

「令和6年度青森県在宅保健師の会総会並びに研修会」研修報告

東山 恵子 会員（南部町）

賑やかな交流会・情報交換会が終わり、電車の時間を気にしながら帰り支度をしている最中に、いきなり今日の感想を書いてくださいと原稿用紙を渡されました。情報交換会で笑いすぎて、肝心の会長の挨拶や研修内容がすっ飛んでしまっていて「どうしたものか」と思いながらも手が伸びて受け取っていました。

総会資料に目を通すと、事業の多さに気付かされ、事務局の方々の大変さが伝わってきます。青森県がん・生活習慣病対策課の山田課長代理の講話で「生き生き健康県民運動」の冊子が示された場面では、当時の保健所で生き生き事業を担当し、実践会議開催に向けて構成員をどうするかで悩んでいたことを思い出していました（30年以上も前のこと）。

今年度の総会で一番盛り上がったのは、交流会・情報交換会ではないでしょうか。6つのグループでテーマも決めず、とにかく何でも好きなように話し合う時間は、瞬く間に過ぎてしまいました（まるでグループ対抗お笑い合戦でもしているような状況）。

昼食の時間には古川会員と澤谷（幸）会員から、県内の公衆衛生改善に貢献した、花田ミキ先生のことを特集した季刊誌「あおもりのき」の紹介がありました。また、新聞で花田先生を特集した季刊誌が発行された



交流会・情報交換会の様子①

ことを知り、個人的に書店で買って読みました。県内の保健師にもぜひ手にしてほしいと思った一冊です。映画も3月に八戸で観ましたが、全国の看護職の方々にぜひ観ていただきたい映画だと強く思いました。7月5日から県内で公開されるとのことですので、また観に行きたいと思います。

話は変わりますが、今年で在宅保健師の会会員歴は10年経過しました。総会はコロナ禍で中止になった年もありましたが、なるべく出席し（大）先輩諸姉と言葉を交わし、元気な姿を目にすることで、自分も頑張ろうとスイッチが入るような気がします。今回の総会でも、まさにそのことを実感しました。元気はつらつしているために、よく食べ、よく笑い、よく喋って、よく動き、よく眠ることの積み重ねが大切だなあと再確認した次第です。

最後に、私が保健師関係の紙資料をなかなか捨てられずにいることを話したら、先輩からの助言。「いちいち見ないで捨てる！」と、最も適切な助言をいただきました。見るから捨てられなくなる。「そうだよな～」と思いながら帰りました。最近、同年代の友人知人と集まると話題になる事柄ですが、保健師の資料や本はもう少し手元に置くことにします。



青森県がん・生活習慣病対策課 課長代理 山田様からの講話

参加者の声 (アンケートから：回答数33)

(1) 総会について

- ・総会がスムーズに進んで良かった。(16)
- ・和やかな雰囲気良かった。(4)
- ・説明が分かりやすかった。(4)
- ・助成金を使うところが増えれば良いと思う。

(2) 研修会について

- ・とても分かりやすかった。(13)
- ・(後日でも良いので)資料が欲しかった。(11)
- ・懐かしい内容だった。(5)
- ・青森の健康増進について学ぶことができ、勉強になった。(3)

(3) 交流会・情報交換会について

- ・先輩の話が聞けて良かった。(4)
- ・皆さん元気だった。パワーをもらった。(3)
- ・自分ももっと頑張ろうと思った。(2)
- ・テーマなしに自由に好きなことを話すのも良いと思った。(2)

- ・地域毎の交流ではなく、他地域との交流が楽しかった。

(4) 総会・研修会全体を通しての感想

- ・みんなと顔を合わせることが楽しみのになっている。(2)
- ・また参加したい。毎年楽しみにしている。(2)
- ・在宅保健師の会が、青森県の健康増進に寄与していることを再確認した。
- ・できるうちは仕事、趣味を頑張ろうと思った。好きなことをして生きる。仲間も大切にしたい。

(5) 会の活動に対する意見要望等、その他皆様からの一言

- ・在宅保健師の会の良さを再認識した。
- ・これからも情報共有の場は設けてほしい。
- ・役員の意気込みに感動した。その反面、新役員は当面介入できないのかなど淋しい気持ちもある。2～3期で交代することも必要かと思う。
- ・情報交換会はこれからも続けてほしい。



交流会・情報交換会の様子②



新入会員 より一言

今年度、2名の新入会員を迎えました！

新入会員の田中尚恵会員より、入会にあたって一言いただいておりますので、ご紹介します。

田中 尚恵 会員 (三戸町)

令和6年3月末で三戸町役場を退職し、4月1日より再任用保健師として働かせていただきます。

在宅保健師の会の活動に参加することは、時間的に難しいかと思われませんが、会報により先輩方の御活躍を拝見させていただきたいと思っております。よろしくお願いたします。

役員から



新井山 洋子 会長
(五戸町)

この度の総会において再任となり、改めて会員の皆様のため、精一杯取り組む所存です。

近年、雇用形態が変わり、退職後の再任用や定年延長などで退職者の把握が難しくなっています。新会員の増加のために皆様の御協力をお願いいたします。

また、ここ数年、何もしていないのでと退会する会員が増加傾向にあります。

私たちの会は、親睦も目的としています。会員がいるからこそこの会です。青森県在宅保健師の会を支える一員として、皆様一人ひとりが重要で大切な存在です。

退会をお考えの方は、ぜひとも退会をずっと延長してくださいようお願いいたします。

2年間、役員共々よろしくをお願いいたします。

る、地域活動に携わってきたことに誇りを感じました。次世代にバトンを繋いでいくことが、私たちの大きな役割かと思えます。

微力ですが、これからもよろしくをお願いします。



高坂 恵美子 幹事
(むつ市)

役員になって5期目、会計を担当して2期目になります。会長はじめ先輩たちの熱意に刺激を受け、年4回の役員会がとても楽しみです。

役員会もそうですが、同級生に会えること、列車の車窓から見える景色、駅前でのショッピングなどを楽しみながら役員会に出席しています。これからも頑張ります。



北山 つね子 副会長
(東北町)

大先輩の古澤さんに勧められ引き受けてから、一番の古株になってしまいました。その割には、成長していませんが(笑)。役員会は、いつもみんなワイワイ和やかな雰囲気が進められ、私にとっては新しい情報や学びの場として、とても新鮮な機会になっています。でも、そろそろ元気な後輩にバトンを渡したいと考えています。今期は老体(自分ではそう思っていないかもしれませんが)にムチ打ち頑張りますので、是非後輩の皆さんの手上げを待っています。よろしくをお願いします。



中居 裕子 幹事
(八戸市)

役員を引き受けてはや3年目。されどまだ3年目…。

昨年度は、25周年記念誌の発行や東北地方在宅保健師等連絡会議の開催など、貴重な経験をさせていただきました。会員の中では若い方ですが、膝、腰痛、物忘れと戦いながら生活しており、役員会に参加するたび先輩保健師のパワーに圧倒されています。

こんな私ですが、無理をせず会の一員として頑張っていますので、よろしくをお願いします。



山谷 紗千子 副会長
(五所川原市)

令和6年度、再度副会長を務めさせていただくことになりました。本会がますます活性化するように、仲間のパワーを感じながら、微力ですが頑張りたいと思っています。よろしくをお願いいたします。



三上 扶貴子 幹事
(弘前市)

令和3年に県保健師を退職した私の務めは、母の看取りでした。その母もあっけなく他界。あとは当然のことですが、相続の手続きやら、遺品整理等の日々でした。

これと並行して、長女家族の子どもの誕生。初孫の育児のお手伝い等目まぐるしく毎日が過ぎました。思った以上に気力と体力を費やしたように思います。ですが、時間の経過とともに落ち着いてきたかと一安心したところで、今年春には長女家族が他県に転居。当然孫も遠く離れることに。急な家族の変化に、気持ちがついていけない状況でした。



今 和子 幹事
(弘前市)

こんにちは。弘前市の今です。在宅保健師の会の役員になり9年目になります。

先日「じよっぱり 看護の人 花田ミキ」の映画を見て感動しました。命を守り育てる保健師の原点であ

一言

今回の役員改選で佐藤宏子監事が退任され、新役員として三上扶貴子幹事を迎え新体制となりました。役員の方々よりメッセージをいただきましたので、ご紹介します。

そんな中、在宅保健師の会中南地区役員にと声を掛けていただいたのは、気持ちを変える良い機会なのではないかと感じました。同居する次女に役員のことを話したところ「フッキー（私、扶貴子のことです）大丈夫？できるの？」と言われてしまいました。少しでもお役に立てるよう皆様のお力とご助言をいただきながら頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

今年度も会員同士顔が見える関係に努めながら、新井山会長提唱のGTK（元気で楽しく長生き）で、国保連の支援に感謝しつつ、役員役割を果たしていきたいと思っております。



奥瀬 郁子 幹事
(青森市)

幹事4期目です。昨年度の「25周年記念誌」の完成には微力ながら関わることができました。何度か原稿を読み返ししながら先輩の皆さんのこれまでの経歴を知るにつれ、「すばらしい」の連続でした。

これからも役員や仲間の皆さんのパワーをいただきながら、地域のために幅広く活動していきたいと思っています。



三和 千枝子 監事
(五所川原市)

退職後に皆と会える場があることを大事にして、会の活動が楽しく実施でき、前向きに生きていけるよう努めていきたいと思っております。

また、電話などで声掛けさせていただきますので、気が付いたことは何でも話してもらえるとありがたいです。



越後 秀 監事
(三戸町)

平成25年5月、会設立15周年の年に入会。あっという間に10年が過ぎました。

昨年は、会設立25周年記念事業や東北地方在宅保健師等会連絡会議の開催など忙しくも楽しく進められたことが印象に残っています。

役員通年6期目、監事3期目になります。これからもみんながイキイキと活動できる会と一緒に目指したいと思います。会員の皆様の御協力を今後ともよろしくお願いいたします。



澤谷 悦子 幹事
(青森市)

役員3期目に入りました。昨年度は、例年の事業に加え会設立25周年パーティーや記念誌の作成、東北地方在宅保健師等会連絡会議など、会員一同くっばってやり遂げることができました。まんず頼もしい限りです。

役員お疲れさまでした！

12年間、役員として会の活動に尽力された佐藤宏子会員より、退任にあたってメッセージをいただいておりますので、ご紹介します。

佐藤 宏子 会員 (黒石市)



定年退職とともに役員になって12年。このたび無事？退任することになりました。

役員になって初めて、在宅保健師の会の活動を知りました。会員の地域活動や、現職保健師を支援するために幅広く活動していること、会員同士の交流会や研修会を大事に継続していること等々。

役員会での話し合いは楽しく、笑いに包まれたもので、現職時代の会議とは大違い。役員の方々がとにかく元気で、はつらつとしていて、毎回元気をもらっていました。その中で設立20年、25周年の記念誌作成に携われたことは感慨深いものがあります。原稿を依頼しても会員の皆さんが快く引き受けてくださり、協力的な姿勢に感動さえ覚えました。

この12年間、現職保健師の気分で過ごせたことが、ボケ防止につながっていると感じています。これからは自分の健康管理に努めながら、会の活動に協力していきたいと思っております。ありがとうございました。

令和6年度 青森県保健協力員会等連絡協議会総会並びに研修会

5月30日(木)にリンクモア平安閣市民ホール(青森市民ホール)で開催され、本会会員15名を含む487名が参加しました。参加された菊池美智子会員(青森市)からの報告です。

- (1) 総会 来賓挨拶：宮下知事、新井山会長
- (2) 研修会 ① 活動発表「短命県返上のための次の一步」
座長：国立大学法人弘前大学学長特別顧問・大学院医学研究科社会医学講座特任教授・青森県総合健診センター理事長・青森県医師会健やか力推進センター長 中路 重之氏
「大間町保健協力会活動の紹介」
活動発表者：大間町保健協力会 会長 佐藤 恵美子氏
「弘前市健康づくりサポーター活動発表」
活動発表者：弘前市健康づくりサポーター連絡協議会 会長 成田 津江氏
- ② 行政説明「第三次青森県健康増進計画(歯・口腔の健康)の推進について」
説明者：青森県健康医療福祉部がん・生活習慣病対策課・青森県口腔保健支援センター
副参事 金澤 孝彦氏
- ③ 講演「お口の病気が全身の健康に与える影響について」
講師：弘前大学大学院医学研究科歯科口腔外科学講座教授
弘前大学医学部附属病院歯科口腔外科科長 小林 恒氏

令和6年度青森県保健協力員会等連絡協議会研修会に参加して

菊池 美智子 会員 (青森市)

保健協力員さんの研修会には実に10年ぶりの参加となりました。コロナ禍の活動制限の時期を越えて集った会場いっぱいの協力員さんの熱気と熱意に、私も元気をもらいました。

活動発表では、大間町の地域色豊かな「紙人形を使った健康劇」、弘前市の「QOL健診測定従事者としての活動」など、それぞれ新たな視点で「住民による住民のための活動」が活発に行われている報告がありました。

研修会のテーマは口腔保健。今では口腔の状態と全身の健康との関連はだいぶ知られてきておりますが、歯周病菌とアルツハイマー型認知症との関連や、口のまわりの衰えが積み重なって起こるオーラルフレイルが全てのフレイルを引き起こすことなど、口腔の清潔や機能を維持することの大切さを

改めて学びました。

さらに今回「顎骨壊死の予防」という新しい知見も得られました。仰々しい病名でまさにギョッとしましたが、これは抜歯の後に顎の骨の組織や細胞が死滅し、骨が腐った状態になる病気だそうです。服用剤が原因となることもあり、特に中高年の女性に関連のある骨粗鬆症の治療薬は要注意とのことでした。日頃から口腔内の清潔を保つことはもちろん「かかりつけ歯科医を持っておく」「歯科受診時もお薬手帳を持参する」「特に抜歯の際は歯科医師とよく相談する」といったことを心掛けて欲しいそうです。

健康の入り口はやっぱり「お口」だなあと、保健協力員さんと一緒に楽しく学べたひと時でした。

令和6年度地域の保健・福祉活動支援事業活用団体

第2回役員会(7月16日(火)開催)で決定した今年度の地域の保健・福祉活動支援事業活用団体は以下の5団体です。

- | | |
|-------------------------------|-----------|
| (1) ラジオ体操とワイワイロコトレの会(青森市) | 代表：千葉 綾子 |
| (2) 来てみんな会(十和田市) | 代表：長瀬 比佐子 |
| (3) 白石分館ほのぼの交流会(七戸町) | 代表：八嶋 昭子 |
| (4) 金矢ふれあいいきいきサロン(六戸町)【新】 | 代表：坂本 りつ |
| (5) シニア倶楽部女子会「ひまわり」(五所川原市)【新】 | 代表：井沼 登志子 |

当事業は、地域で会員が独自に取り組んでいる保健・福祉活動を支援し、会員の自主的な活動の推進と地域貢献を図ることを目的としたもので、助成期間は原則5年間となっております。ボランティア活動等、地域の活動をされている方はぜひご活用ください!!

助成を希望される場合、ご不明な点がある場合は事務局までご連絡ください。

映画

『じょっぱり 看護の人 花田ミキ』
関わって

本会会員より2名が、映画「じょっぱり 看護の人 花田ミキ」にエキストラ出演しました。出演した澤谷幸子会員、浜田範子会員より、映画に関わった感想を届けていただきました。

澤谷 幸子 会員 (横浜町)

このたび、青森県民の命と健康を守るために全力で取り組み、尽力された花田ミキ先生の生涯が映画化され「じょっぱり 看護の人 花田ミキ」という題名で、令和6年3月から7月まで県内各地で上映されました。

この映画は、令和5年3月4日から3日間、佐井村の海岸沿いでロケが行われました。先輩保健師の浜田範子さんと私がエキストラとしてお声がかかり、ほんの数分でしたが一生の思い出に残るロケの体験をさせていただくことができました。

映画製作の基になった著書「命を阻むものはすべて悪 花田ミキという生き方」(松岡裕枝著、東奥日報出版)では、戦争に3度も召集された悲壮な体験が、木野花さん(花田先生役)の遠くを見つめる眼差しが語っており、目頭が熱くなりました。

この映画は、戦前戦後の農村漁村で働く女性の暮らしや、結核等病気に対する偏見、男女平等共同参画とは程遠い職業婦人の置かれた立場などが描かれ、当時の社会世相を知ることができる映画でもあります。

昭和30年代後半、青森県は全国最悪の乳児死亡率を克服するために「もったら殺すな運動」を、保健婦(師)と助産婦(師)がチームを組み、一丸となって取り組みました。この言葉は、青春を謳歌している若い方々にも十分通用し、シングルマザーとしてフレッシュな演技をされた王林さんから「妊娠したら絶対中絶しないで産み育てなければいけない!」と強いメッセージをいただきました。看護職はもちろんですが、

特に若い方々に映画を観ていただきたいと切に思います。

最後に、青森県の無名の一女性に光を当て世に送り出してくださった五十嵐匠監督に心から感謝とお礼を申し上げます。



浜田 範子 会員 (むつ市)

「花田ミキさんは命の恩人です」と語り、熱い思いで映画製作に臨んだ五十嵐監督、鎌倉プロデューサーお二人とも青森県の人です。映画の撮影スタートはぜひ下北でと強い希望があり、鎌倉さんが下北を一周する日程に合わせて協力できる人を探しているとのこと、知人を通して私が紹介され、映画に関わることとなりました。

看護学生時代、花田先生の授業、市町村保健師として活動したことなど、初対面にも関わらず話が弾みました。

佐井村で撮影がスタートしたとき、案内をいただき見学に行ったのですが、花田先生の若い頃を演じた伊勢佳世さん、鈴木治子先生役の相馬有紀さんとも直接お話ができ、興奮したことを覚えています。

本番の「よーいスタート」「カット」はすごい迫力で、厳しい寒さの中、夕日が沈む時間に合わせてしぼれる海岸でたいまつを掲げて歩くエキストラの皆さんも真剣です。

そしていよいよ木野花さん、王林さんが登場し、映画完成です。

昨年12月に佐井村アルサスで試写会があり2回観ることができました。花田先生がスクリーンの中にあるような感覚になりました。涙、涙でした。

八戸会場では出演者の方々の舞台挨拶があることで、座席の予約を友人にお願いしましたが、八戸市内の圧倒的な人気に押され、残念ながら席が取れませんでした。

その後、青森での上映。同級生や友人から「映画見たよ、感激した」と嬉しい連絡がたくさんありました。

青森県の看護教育の基盤を作ってくださった花田先生、人、地域を大事にする花田先生がこの映画に存在しています。

映画は県内全市町村で上映されるとの情報がありません。みなさんぜひ観に行きましょう。

コーヒーブレイク

山は友だち

清野 葎子 会員 (青森市)



私が初めて登った山は、八甲田山です。中学時代友達と登り、苦しかったかは忘れてしまいましたが、頂上はとても風が強かったことを記憶しています。

2回目は、全国看護学生セミナーに参加した際に長野県の戸隠山(標高1904m)に登りました。この山は忍者が修行した山なので、所々とても険しいところがあります。

頂上では、四方に高い山がたくさん見え、いつかは登りたいと思いながら帰宅しました。

本格的に山登りを始めたのは50代。登山好きな夫の影響もありました。夏季休暇を使い北海道から屋久島(鹿児島県)の山に登りましたが、特に思い出に残っている山は富士山(標高3776m)や槍ヶ岳(標高3180m)などです。御嶽山(標高3067m)は、私が登った2週間後に噴火したそうで驚きました。泊まった日も前触れが何度もあったとのこと、何事もなく帰宅できたことに感謝しました。



北海道のトムラウシ山(標高2141m)は、朝5時から19時頃まで歩き、山をいくつも越え登頂しました。途中でリタイアした人もいましたが、夫と共に登頂できたことを喜びました。



今年は、何年かぶりに八甲田山の登山を計画していましたが、熊の出没により残念ながら中止としました。次は秋の紅葉時、梵珠山に登りたいと思っています。

今後については、まだまだ登りたい山はありますが、今年喜寿となったので県内の山を愛していきます。また、いつでも山に登れるよう、日頃から体力づくりに励み、自然と触れ合いたいと思います。鳥や虫の声、花々や木々、葉の色、頂上から眺める雄大な景色等々、山は個性。特徴があり1つとして同じ山は無い。だからこそ、やめられないし、わくわくします。

良い時に登ったなあ、同僚や山仲間、家族に感謝しています。

令和6年度在宅・現職保健師保健所ブロック別交流会並びに研修会のお知らせ

令和6年度在宅・現職保健師保健所ブロック別交流会並びに研修会開催

保健所管内毎に在宅保健師が集い、近況報告し合いながら親睦を深めるための交流会と「くすりの適正使用に向けて～ポリファーマシー*を考える～」をテーマとした現職保健師との合同研修会を行いますので、皆様お誘い合わせの上ご参加ください。なお、詳細については、別途個別に通知いたします。

お知らせ

管内	日程	開催場所	<時間>
東青地域	令和6年10月8日(火)	ねぶたの家ワラッセ(青森市)	11:30~13:00 在宅保健師のみの交流 13:30~15:15 現職保健師と一緒に研修会
弘前	令和6年10月10日(木)	弘前市民会館	<内容>
三八地域	令和6年10月16日(水)	YSアリーナ八戸	①講演「くすりの適正使用に向けて ～ポリファーマシー*を考える～」 講師：各地区外部講師(薬剤師)
上十三	令和6年10月18日(金)	市民交流プラザトワーレ(十和田市)	②質疑応答
むつ	令和6年10月22日(火)	むつ合同庁舎旧館	*ポリファーマシー …有害事象につながる多剤服用
五所川原	令和6年10月25日(金)	五所川原市民学習情報センター	

ニューフェイスから一言



今年5月から国保連合会に採用され、在宅保健師の会の担当をさせていただくことになりました、事業振興課 保健事業係 齋藤果南です。

入職して間もなく、初めて参加した総会と役員会。会員の皆さまのパワフルさに圧倒され、熱心に物事に取り組む姿に私も元気をもらいました。人生の大先輩方からパワーをいただき、一緒に在宅保健師の会を盛り上げていけるよう頑張りたいと思っています。

次は、10月のブロック別交流会(研修会)でお会いできることを楽しみにしています！よろしくお願いいたします。

編集後記

映画「じょっぱり看護の人花田ミキ」を観ました。

「命を阻むものはすべて悪」という言葉の意味、その重さを改めて知りました。

保健師として住民の命を守るために、それを阻む社会、差別、あらゆるものと人生をかけて闘った強く優しいミキさんに胸が熱くなりました。「大先輩を誇りに思う」という言葉では到底足りない尊さです。

今回映画製作に関わり執筆いただいたお二人の会員以外にも、当時を知る会員の方々からの証言があってこそ、完成した映画だと聞いています。未来を担う後輩たちにも是非見てほしいと思いました。

